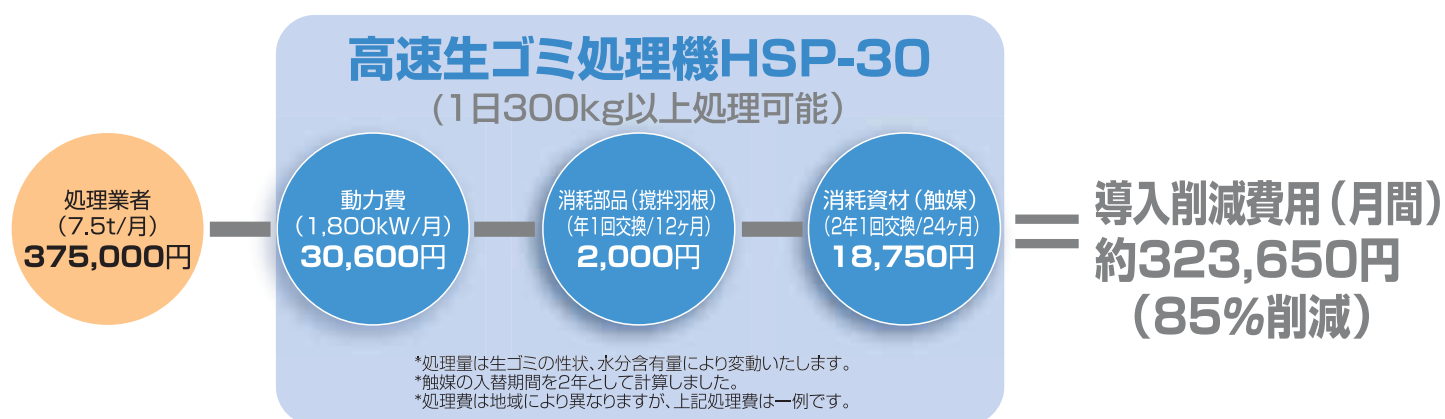


世界初! バクテリア不要高速生ゴミ処理機でコスト削減 『ハイスピードプロセッサー』

ミネラル分のみを残し生ゴミを高速減容処理する生ゴミ処理機『ハイスピードプロセッサー』を紹介する。

従来の生ゴミ処理機は、生ゴミと触媒のバクテリアを桶に入れ約24時間かけて生ゴミを減容処理していた。しかしこの処理機は、触媒に天然鉱石を使用しバクテリア不要。この技術は世界初。結果、生ゴミの乾燥・分解が約1時間になり、生ゴミの連続投入、高速減容処理が可能になった。コンパクト設計、完全密閉型、脱臭装置付。ランニングコストは動力費と消耗品費のみ。生ゴミ回収業者依頼処理費用比85%減を実現。1日当たりの処理量150kg～700kgまで4タイプある。



複合触媒方式とバイオ方式との比較

【比較項目】	当機械(複合触媒方式)	バイオ方式
【特 徴】	複合触媒の作用により分解減容させます	菌の作用により減容させます
【生ゴミの分解方法】	化学的に分解します	醗酵させて分解します
【投入生ゴミの種類】	生ゴミであれば殆ど全て分解します 1種類の物を連続投入しても問題ありません	投入物の種類によって菌の選定が必要となります。 1種類の物だけ連続投入すると菌が作用しなくなる事があります
【標準処理時間 (大量の野菜を投入した場合)】	30分間～1時間	6時間～20時間
【標準処理量】	短時間で処理出来るので1日数回稼働する事が出来ます。 (24時間体制の工場に設置する場合は1日10数回稼働出来ます)	菌の働きには限界があり、1日1～2回しか稼働できません。 (24時間体制の工場に設置しても上記稼働回数は変わりません)
【減容率(減量率)】	約1/1000～1/10000	約1/10～1/100
【処理後の取り出し】	基本的に必要ありません	菌の状態により頻繁に取り出しをする事があります
【床 材 の 交 換】	基本的に必要ありません	取り出し作業後全交換
【匂いはどの程度?】	防臭装置付きなので、臭いはしません	醗酵臭・腐敗臭があります
【脱臭機の必要性】	必要ありません	特に腐敗臭が出る場合必ず必要となります
【機械本体の外観】	コンパクトな設計	処理槽の容積が大きい為、機械本体寸法も大きなものとなります